



# 尾久西だより

荒川区立尾久西小学校

発行日 令和3年10月30日

発行者 校長 芝田智昭

No. 365 11月号

## 日常を取り戻す

副校長 水野美津子

「昨年度は見られなかったのですが、とても楽しみにしていました。」

「やはり、配信映像で見るのとは全く違いますね。」

「子供たちの様子を見られて本当に嬉しいです。」

10月14日～20日の学校公開での保護者の方の感想です。体育館と校庭のみの限られた場所での参観でしたが、平日にも関わらず多くの保護者の方がお子様の姿、クラスの様子を一目見ようと来校してくださいました。これまでも映像配信で学級や学校の様子をお伝えしてきましたが、映像では伝えられない子供たちの息遣いやクラス全体を包み込む空気を感じていただけたと思います。保護者の方の前でいつもより張り切って学習している姿、子供たちを見守る保護者の皆様の姿から、少しずつ日常が取り戻されつつあると感じました。

昨年度中止になった6年生の下田移動教室や5年生の清里移動教室も、今年度は日にちを1泊2日と短縮されましたが、実施することができました。「友達と部屋でたくさん話すことができました。」「友達と食べるシイタケのバーベキューはおいしかったです。」「船に初めて乗り、下田の町を見ることができました。」と嬉しそうに楽しかった思い出を話していた子供たち、やはり体験に勝るものはありません。早く通常の学校生活のように子供たちに様々な体験をさせてあげたいと思います。

さて、裏面の全国学力・学習状況調査の意識調査の結果を見ると、一昨年度の結果と比べて（年による児童の特色はありますが）意識が高くなったり、あまり変わらなかったりした項目は＜規範意識＞＜貢献意欲＞でした。＜規範意識＞は、マスクをする・黙食・ソーシャルディスタンスなど守らなければならないことが多い中での生活が影響しているのかもしれませんが。＜貢献意欲＞は、今年度も地域の方のご協力で職業体験を行うことができ、働くことの意義・人の役に立つことの喜びを感じられたことの成果でしょうか。逆に10ポイント以上下がった項目は、＜自己肯定感＞＜将来の展望＞＜挑戦心＞でした。人との関わりが制限された中での生活で他人から認められる機会、挑戦する機会が減った結果かもしれません。本来の学校の姿である、人や物、事と関わることで、自分の中にある答えを見出していけるよう、そして、何より子供たちの日常を早く取り戻していけるよう、教職員一同、尽力していきます。